

5

- 2 [土] 楽団「彩の風」第25回定期演奏会◎PLATアートスペース
- 4 [月・祝]・5 [火・祝] とよはしアートフェスティバル2026 大道芸inとよはし◎PLAT主ホール ほか
- 6 [水・祝] 音の風コンサート◎PLATアートスペース
- 9 [土] Chants d'amour ～愛の歌たち～◎PLATアートスペース
- 10 [日] アコースティックライブ2026◎PLATアートスペース
- 11 [月] 第56回 桂文我独演会◎PLATアートスペース
- 17 [日] セカンドブリッジ創立15周年記念 アレイキャッツビッグバンド ジャズコンサート◎PLATアートスペース
- 21 [木]・22 [金]・23 [土] メアリー・ステュアート◎PLAT主ホール
- 28 [木] プラットワンコインコンサート 鈴木びあ乃「めぐりゆく旋律」◎PLATアートスペース
- 30 [土] 講談 一龍斎貞鏡独演会◎PLATアートスペース

6

- 6 [土]・7 [日] ル・コント『この世界に19文字の文章など存在しない』◎PLAT主ホール
- 11 [木] 小曾根真トリオ TRINFINITY+featuring 松井秀太郎◎PLAT主ホール
- 12 [金] 笛田博昭 テノール・リサイタル◎PLATアートスペース
- 13 [土] 青い目の人形物語"100才のお人形"のおはなしと合唱ミュージカル◎PLAT主ホール
- 20 [土]・21 [日] カンパニーデラシネラ『はだかの王様』◎PLATアートスペース
- 27 [土] ナニ・ロカヒ・フラクラブ フラダンス発表会◎PLAT主ホール
- 28 [日] 第44回 アコーディオンコンサート◎PLATアートスペース
- 30 [火] プラットワンコインコンサート 中村由紀子「記憶とウタ」◎PLATアートスペース

7

- 4 [土] 木ノ下歌舞伎『心中天の網島』アクセシビリティ版◎PLAT主ホール
- 11 [土] 井垣壮太&ミケール・イェニングス ピアノコンサート◎PLATアートスペース
- 20 [月・祝] 第六回とよはし若手落語会 ～兄弟会～◎PLATアートスペース
- 23 [木] ウクライナ国立バレエ「スペシャル・セレクション2026」◎PLAT主ホール
- 25 [土]・26 [日] プラット親子わくわくプログラム2026
アガット&アドリアン『ノ・ルムーふたりのバランスー』◎PLATアートスペース

PLAT NEWS



TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

表紙/HARO「大道芸inとよはし」
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF
令和8年4月発行77号[年4回発行]



公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2026年5月-7月

vol. 77



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

1	Interview:1	とよはしアートフェスティバル2026 大道芸inとよはし 大道芸は奇跡を生む。 奇跡を見た人は虜になる。	7	Interview:4	アガット&アドリアン 『ノ・ルムーふたりのバランスー』 涙と笑いが絶妙に溶け合う、 親密で心揺さぶる旅へお連れします。
3	Interview:2	カンパニーデラシネラ『はだかの王様』 ないものをあると言うことは嘘か。	9	Information	PLAT主催・共催公演情報 Ticket center
5	Interview:3	小野寺修二 舞台はここにはないものを 信じることで成り立つ世界。	13	Pura pura	バラコの寄り道ぶらぶら 願い 桑原裕子
		藤田桃子 木ノ下歌舞伎『心中天の網島』 アクセシビリティ版 木ノ下歌舞伎は二十年を経て、 これからはアクセシビリティです。	14	Sponsor	Support
		木ノ下裕一			



竹内直 The Organic Resonations[JAZZ]
シ オルガニック レゾネイションズ

撮影:伊藤華織

ブラックエレファント [JAZZ]

吉川健斗 [ジャグリング&バランス]

芸人まこと [THE 大道芸]

Syan [バルーンパフォーマンス]
シヤン

なにみてるの [ウォーキングアクト]

中国雑技芸術団 [中国雑技]

とよはしアートフェスティバル2026 大道芸inとよはし

5月4日[月・祝]12:00~18:00
5月5日[火・祝]11:00~16:00
会場=穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 北側広場 ほか

加納真実 [マイムコメディ]

K-TARO [オペラ]
ケイダロウ

ソランボ・ソラン
[エアリアル&ジャグリング]

せせらぎ [足長ウォーキングアクト]

パーバラ村田 [マイムシアター]

ハロ HARO [足長ウォーキングアクト]

ものまる [タップダンスバラエティ]

ステージアンダースルー
SUKE3&SYU [アクロバット]



11年ぶり

NEW

3年ぶり

NEW

大道芸プロデューサー
聞き手 大橋玲 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 事業制作部

大道芸は奇跡を生む。 奇跡を見た人は虜になる。

Interview:

大橋——最初に、今年の見どころを教えてください。
橋本——大きなポイントとして、今年は今までの出演ラインナップから3分の2程度入れ替え、新しい風が吹くようなコンセプトで考えています。音楽から中国雑技団、コメディーも入り、極力幅広いジャンルを取り入れ、色々なジャンルの中からその年最強だと思える人たちをピックアップしています。

15組のうち9組は、久しぶりの顔ぶれと全く新しい芸人です。同時に、加納真実さんや音楽の竹内直さん、フィナーレでも活躍してくれるブラックエレファント、芸人まことさん、中国雑技団という毎年恒例の芸人たちが登場します。加納さんが来ないと、多分豊橋の人に怒られちゃうんじゃないかな。

大橋——初登場の芸人はどんな方々でしょうか。
橋本——今回のニューフェイスの大作ソランボ・ソランは、久しぶりのエアリアルです。非常に雰囲気の良いユニットで、ティシューの長すみ絵さん(写真上)もすごく良いし、そのパートナーの森田くん(写真下)はジャグラーの元日本チャンピオンです。ジャグリングもエアリアルの技術もすごい。それが非常に柔らかな良い世界観のショーを作っています。Syanくんもバルーンの世界チャンピオンを何回も取った鬼のような経歴を持つ人で、この人はバルーンで作れないものがないです。バルーン作品を生み出すまでの見せ方にもご注目ください。

それ以外にも、吉川健斗くんは大道芸界の大谷翔平と呼ばれているような人。基本的にはサーカスの分

野で活躍している人ですが、技術のクオリティと、性格と雰囲気の良さが素晴らしい。ものまるくんは、タップダンスをメインにして見せる人で、若手の期待枠。みんなが期待しています。オペラのK-TAROさんは「誰も寝てはならぬ」とか、いろんな歌をソロで歌い上げます。人の歌声って、本当に感動します。最後のスペシャルライブの時も歌ってもらおうと思っています。

なにみてるのさんは、普段「スタチュー」と呼ばれる銅像のようなパフォーマンスをしています。普段は動かないスタチューですが、今回の豊橋でウォーキングバージョンを初披露です。パーバラ村田さんのショーは人生で100回以上観ているはずなのに、今でも毎回のように、本当に泣いちゃう。最初から観ていると、よりその起承転結の部分を一緒に旅できます。

今回はパフォーマンス要素が強いですが、久しぶりに色々なパターンで楽しいラインナップです。技術はもちろん、技術を使ってどう表現に昇華させ、自分の作品を生み出していか、というところに焦点を当てて人達ばかりです。

大橋——劇場の中ではなく、青空の下でパフォーマンスをする大道芸の魅力は何でしょうか。
橋本——劇場というのは、生み出したいシーンがあって、劇場内に世界を立ち上げていきますよね。表現者も演出家も、根本的に背景にノイズがあることは想定されていない。全部が想定されたもので行われ、その想定力が演出家や美術家や照明家の腕の見せどころで、クリエイティブの発露となるわけですね。

大道芸の場合は、ノイズしかない。自分が想定していることは背景には1つもありません。屋外でやるパフォーマーにとっては、予期しないものがいくらでも自分のショーの中に影響を及ぼしてくる可能性がある。それを全部無かったことにして、自分の世界だけを強く見せ続けようとしても、どこかで破綻するんです。ずっと横で犬が吠えまくっているのに、無視し続けるわけにいかない。そういう意味でのフレキシブルさを持ってパフォーマンスを行っているので、同じショーを観ても何が起るか分からない。だから目が離せなくなるんです。

見ている人にとっても、座っていると尻は痛いとか暑い寒い、焼き鳥の匂いがする、すごく心地よい風が吹いている、豊橋は風が強いとか、情報は多いですね。それが観劇体験の中にミックスされて、経験として自分の中に残るんだと思います。そのタイミングが奇跡的にハマった時には、例えば、同じ風を感じたら、豊橋のあの場所で観た加納さんを思い出す。焼き鳥の匂いがしたら芸人まことさんのショーを思い出した。この暑さ、この風、この匂いは、経験値としての記憶に繋がりがやすく、劇場で観ることとは違った観劇体験を味わえると思います。

大道芸には想像以上の本物がそこにちょうどハマる瞬間があるんです。ラストシーンで美しい夕焼けになったり、クライマックスの完璧なタイミングでよ風が起きたり、みたいなことが起こり得る。時間、気候、温度、風、匂いがストーンと1本につながる瞬間に出会うと、五感で全てを経験するから、強く印象に残りますよね。

以前台風の中で大道芸をやった時、エンディングで芸人がだんだん道の奥の方にシルエットで小さく小さくしゃがみながら退場していきました。そしたら台風が一回止んで、光が差した。その光の中に小さく消えていって、もう、「マジか」という(笑)。屋外だからこういった奇跡を生む可能性もあるし、その奇跡を偶然見た人は虜になると思います。

大橋——子供の頃から大道芸を観てきた橋本さんが、大道芸を好きだなと思う瞬間はどういう時ですか。
橋本——人が楽しんでいる顔が見えることです。劇場でも映画館でも、お客さんがどんな表情をしているかを見る機会は限りなく少ないですよ。大道芸の場合は、みんなの顔が見えている。お客さん同士もです。人が笑顔でいる状態を見ることって、街の中ではほぼ無いじゃないですか。だけど大道芸を見る時は素に近い笑顔になっちゃう。例えば子供たちにとっても、自分が笑っているものを大人も笑っている、同じものを観ているのにあんなに楽しそうな顔をしてる。楽しんでいいんだ、と教えられるわけでもなく気付く、ということが大道芸の中にはあるんじゃないかなと思います。

今回は新しい芸人が多いので、新しいものもぜひ色々観てもらいたいです。1日2回、3回と、同じ人を見続ける楽しみ方をする方もいます。好きな芸人の演目は全部観る、それ以外の時間は、別の人を観ようとするという楽しみ方もあると思います。

大橋——それぞれの楽しみ方を見つけてほしいと思います。ありがとうございました。

橋本隆平
[はしもとりゅうへい]
All Street 合同会社 代表。
幼少時より大道芸フェスティバルプロデューサーである父、橋本隆雄と共に、フェスティバル運営に携わり、その経験から国内の数多くのフェスティバルにおいて、現在もプロデューサー、及び統括ディレクターを務める。その他、海外との交流も持ち、主にヨーロッパを中心にパフォーマーの招聘活動も行う。
【主なフェスティバル】大道芸inとよはし/高円寺びっくり大道芸/ひたち国際大道芸/アートタウンつくば/SETOUCHI SUMMER NIGHT FESTIVAL/松本まちなか大道芸/高松大道芸フェスタ/三茶DE大道芸/久留米たまがる大道芸/さいたま新都心大道芸フェスティバル 他多数

カンパニーデラシネラは、身体性に富んだ演劇作品を創作し、マイムをベースにした独自の演出はことから大人まで世代を超えて愛されています。『はだかの王様』は高知県立美術館「デラシネラ古典名作劇場」シリーズの3作目にあたり、これまで『ロミオとジュリエット』『ドン・キホーテ』を劇場や全国各地の小中学校に赴いて上演。PLATでは2作品とも上演し『ロミオ…』はアートスペースにて豊橋市内の中学校鑑賞公演もおこない好評でした。

岸本——第3弾に『はだかの王様』を選んだ理由は？
小野寺——藤田の叔母が、子どもたちに本の読み聞かせをしている方で「はだかの王様は？」とご提案いただき。確かに誰もが知っている話だし、セリフのない無言劇にしても面白いとやり始めたら大変で。藤田——実際は見えていない王様の服を「見える」と嘘をつくのが肝心なところで、嘘をつく、正直、忖度、見栄…言葉を介さずどうやったらこれらを表現できるだろうかと。
小野寺——最後全員が見えていると嘘をつく中で、一人だけが「裸だ」と指摘するのも、無言では難しそう。もちろん言葉を発せば良いのですが、デラシネラは言葉を介さない表現に可能性を感じていて。というのも幅広い年齢の人が一緒に楽しめるし、国籍も問わない。観る人が好きに想像して楽しめる無言劇をとっても面白い表現だと思っています。
ここで、嘘ってなんだろうと考えました。原作でかかれているのは「周りにながされて嘘をつく」弱さですが、マイムの「そこにはないのにあるとする」表現と真っ向からぶつかっている気がしました。では、ないものがあると言うことは嘘か。その人にとってあるなら、本当はあるのかもしれない。テーマは変わってきますが、やりたい作品だと行き着きました。

Interview: 2

カンパニーデラシネラ

『はだかの王様』

6月20日[土]、21日[日]13:00 開演

演出＝小野寺修二

出演＝崎山莉奈、劉 睿筑、善積 元、藤田桃子、小野寺修二

音楽・音響のVV翻訳表現＝雫境

会場＝PLATアートスペース

アンデルセン童話を完全無言劇として描き、人の弱さや滑稽さを浮き彫りにする。

藤田——結局舞台ってそこにはないものを信じることで成り立つ世界。観客との共犯関係で進行するものだから感じています。

岸本——『はだかの王様』は演劇的な要素の強い作品だと思います。見えない服を見えると言うように、お芝居でも、時間やそこにはない空間を観客の想像で瞬間移動して、見えないものを見ていく。

小野寺——子どもたちに「これ、なんだか分かる？」とヒラヒラ動かして見せると、「布」って答える。次に「何色？」って聞くと「紫!」とか言うんですよ。これが演劇や表現のスタートだとしたら、僕らはそういうことをやれたらいいんだと、この作品で学んでいる気がしますね。

アンケートで「よく分からなかった」という感想もありますが、ウェルカムなんです。今、世の中が分かりやすい方向へ進まざるを得なくなっている。手っ取り早く知りたい、正解は何?というような。分からない＝よくないという風潮を感じますが、分からないけど面白かつ

聞き手 岸本 匡史 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 芸術文化のチューサー

舞台はそこにはないものを
信じることで成り立つ世界。

出演 藤田桃子

演 出 小野寺修二

ないものがあると
言うことは嘘か。



※VV[ビジュアル・バーナキュラー]

手話の視覚的文法に映画的技法やマイムを融合させた、ろう者特有の視覚芸術。身体表現のみでストーリーや感情を立体的に描き出し、言語を超えて視覚的に物語を伝える手法。

小野寺修二[おののでら・しゅうじ]

演出家。カンパニーデラシネラ主宰。日本マイム研究所にてマイムを学ぶ。1995年～2006年パフォーマンスシアター水と油にて活動。2025年日本ろう者劇団×デフ・バベットシアター・ひとみと共同制作『100年の眠り』上演。第18回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞受賞。2015年度文化庁文化交流使。

藤田桃子[ふじた・ももこ]

日本マイム研究所にてマイムを学ぶ。パフォーマンスシアター水と油での活動を経て2008年カンパニーデラシネラ結成以降は全作品に出演または演出助手として参加。

塩見——『心中天の網島』は今回8年ぶりの再演となります。この作品で演出を糸井幸之介さんをお願いされた理由を教えてください。

木ノ下——糸井さんは当時FUKAIPRODUCE羽衣という劇団に所属されていて、僕はその作品、妙一ジカル(妙なミュージカル)が好きでいつか一緒にいたいと思っていました。糸井さんの作品は、日常のやりとりやポップな会話の奥に、生と死が常に透けて見えるところが魅力です。

初めて糸井さんの作品を観たのは、『観光裸(かんとら)』という作品です。京都旅行中の不倫カップルが、飲みこぼした缶コーラにたかっている2匹のアリを2人で指でつぶすというラストシーンが心中を強く想起させました。近松門左衛門の心中物と、他の作者のものとの大きな違いは、俯瞰的な視点です。『観光裸』のアリをつぶすラストシーンを見て、糸井さんなら近松のシニカルな部分をうまく表現してくださるだろうと。

糸井さんの音楽も非常に重要な要素です。「心中天の網島」は浄瑠璃ですから、もとは頭から最後まで1曲で、その節回しの中に台詞が入っている形式で作られています。糸井さんの妙一ジカルの表現は、浄瑠璃と親和性が高い。近松作品はいろんな演出家が現代劇に作り替えてきましたが、戯曲として扱われることが多い印象で、「音曲」としての近松は置き去りにされがちです。しかし、糸井さんなら近松の音曲性にチャレンジしてもらえたらと思ってお願いしました。

塩見——作品についても教えてください。

木ノ下——近松は十作以上の心中物を書いています。第一作の「曾根崎心中」では、心中する2人の美しさに力点が置かれていますが、最期から2番目の作品となる「心中天の網島」は、本当に後味が悪いんです。小春は、治兵衛を自分と心中させないために動いたけれど、それができなくなった。治兵衛には妻子がいて、妻も2人を心中させまいと救済の道を模索するけれど、結果的に心中してしまふ。皆よかれと思ってやったことが全部裏目に出ていくんです。でも実社会にも、善意が困惑を生んでいくという事はあり、そう

いった部分でこの作品は現代を照射するという気がしています。

塩見——今回の公演ではアクセシビリティにも取り組むということですが、それをどういった方に届け、どう活用してほしいのでしょうか。

木ノ下——今回は視覚と聴覚に障がいのある方に向けたアクセシビリティに取り組めます。木ノ下歌舞伎では2020年の『糸井版 摂州合邦辻』(糸井幸之介演出)の再演からこういった取り組みをはじめましたが、いろんな事情でツアー先にもまで鑑賞サポートをありで持っていけないこともありました。それならば、作品のなかにアクセシビリティが内包された状態にしよう。舞台手話通訳も舞台上で俳優の横に立つ。字幕を投影するためのスペースを舞台美術に組み込む。音声ガイドは毎回ツアー先にも付いている。これらが込みでの作品です。

ゆくゆくは、アクセシビリティがあることがデフォルトでないとはいけません。例えば、現在舞台上で音響機器を使うことは一般的な手法ですが、どの席でも声や音が聞こえるように、という情報保障をわけです。演出と切り離せないもの、演劇的な効果を上げているもの、元を手繰れば全て情報保障につながります。字幕や音声ガイドも、この先色んな方法が試され、進化していったときに、音響や照明などと並ぶ、舞台に欠かせない創造的なテクニカルになるでしょう。

木ノ下歌舞伎は今年20周年。これからの木ノ下歌舞伎のテーマはアクセシビリティです、という所信表明でもあります。今回は「妙一ジカル」なので、聞こえない方に糸井さんの音楽をどう伝えることができるかも挑戦だと思っています。

今回『心中天の網島』は豊橋合めて9ヶ所で上演します。アクセシビリティがあるなら、と声をかけてくれた劇場さんがいくつもありました。おこがましい話です

聞き手塩見直子 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 事業制作部チーフ

木ノ下歌舞伎は二十年を経て、これからはアクセシビリティです。

監修・補綴 木ノ下裕一

が、その作品が、劇場にとってアクセシビリティを充実させていくための追い風になるといいなと思っています。PLATさんは独自のネットワークと、当事者さんとの丁寧な関係性作りを武器に、地産地消で継続的にアクセシビリティ付き公演を創っていらっしゃいます。そんな先進的で、尊敬してやまない劇場で上演できるのはとてもうれしいです。

塩見——木ノ下さんは2025年からまつもと市民芸術館の芸術監督に就任されましたが、就任前との心境の変化はあったのでしょうか。

木ノ下——20代、30代前半ぐらいまでは、自分が面白いと思える作品を上演できればよかったのですが、30代後半ぐらいから「公共性」ということを強く考えるようになりました。人は、自分のことだけ考えていることがつまらなくなる時期があるのかな。そこに松本での芸術監督就任の話をいただいたので、やってみたくて思いました。

現在取り組んでいるアクセシビリティも、それ自体は社会的な貢献という側面がある一方で、それらを通じて自分自身も深まっていくことが分かったんです。今まで見えていなかった人たちの存在が見えてくる。街を歩いていても、この段差、車いすは大変だろうな、

とか、ファミレスの注文用タブレットは見えない方にとっては不便だろうな、とか、この政党の政見放送には手話がない、とか。今まで気がつかなかった社会の姿が少し見えてきたり。

塩見——アクセシビリティを付けることがいずれ、自然なこととして、障がいの有無にかかわらずお互いがいられることに繋がっていくようになればいいと思います。

木ノ下——本当にその通りです。アクセシビリティがあることを、それらを必要としない人も分かるということが大事だと思います。今回のように舞台上に字幕を投影することで、聞こえない人がこの客席にいることを認識できます。音声ガイドも、見えている人がそれを借りられたら、見えない人がどうこの作品を感じ取っているかを想像できる。

アクセシビリティの取り組みを抜きにしても、糸井さんの心の深いところに語りかけてくるような歌があり、終わりかけた夫婦のシーンは、初演、再演合わせてみんな涙、涙で観てくださった場面です。私たちは疫病を体験して、死というものが一気に現実味を帯びた数年間を過ごしました。そういう意味でも、より多くの方に届くようにブラッシュアップしていくつもりです。ぜひ、皆さんでご覧ください。

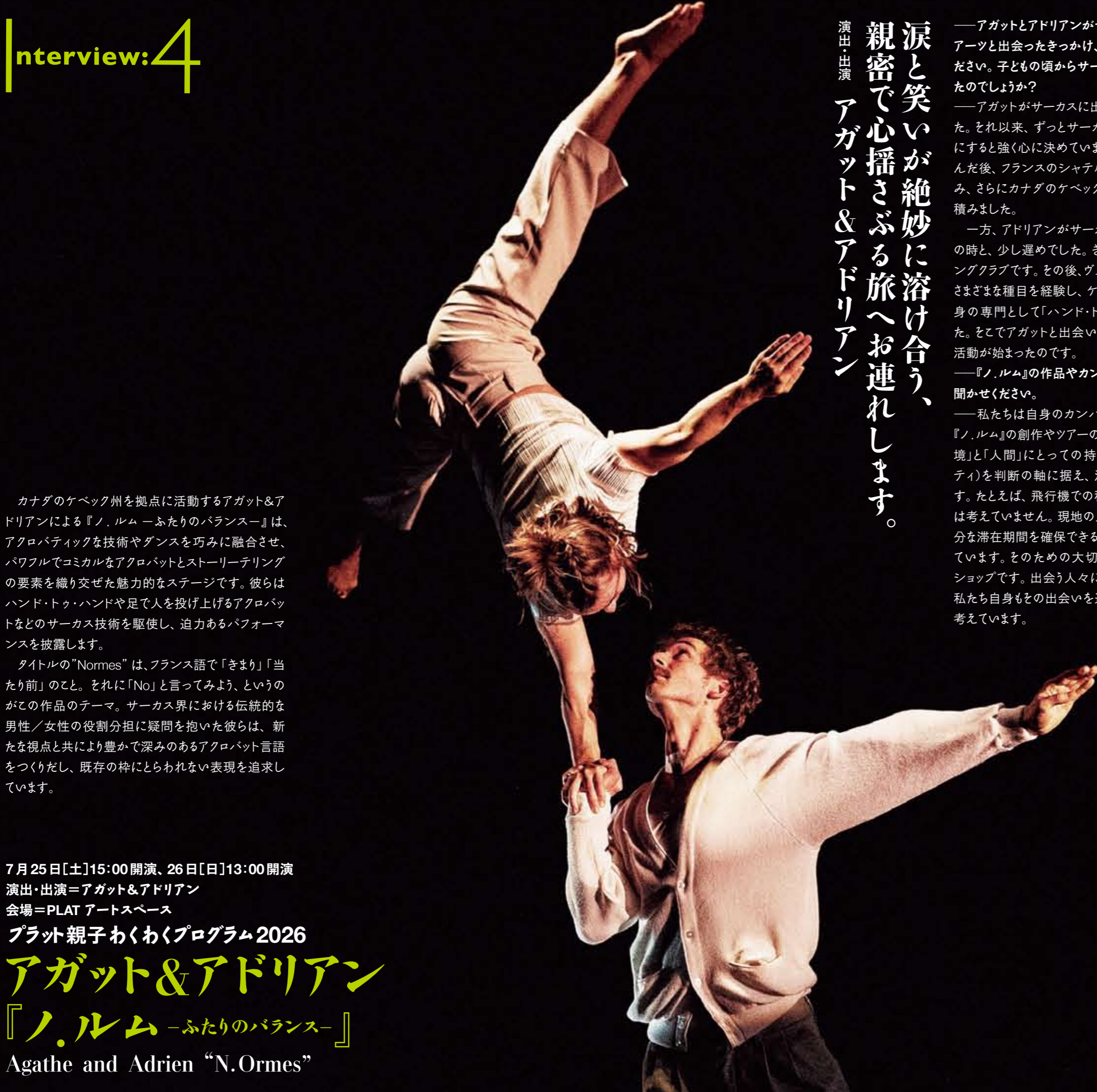
木ノ下裕一
[きのした・ゆういち]
木ノ下歌舞伎主宰。1985年、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受け、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回(令和元年度)京都府文化賞奨励賞受賞。NHKラジオ第2『おしゃべりな古典教室』のパーソナリティーを務めるなど多岐にわたって活動中。単著に『物語の生まれる場所へ歌舞伎の源流を旅する』がある。2024年からまつもと市民芸術館芸術監督団長に就任。

7月4日[土]14:00開演
作=近松門左衛門
監修・補綴=木ノ下裕一
演出・作詞・音楽=糸井幸之介
出演=日高啓介、湯川ひな、伊東沙保、大鷹明良 ほか
会場=PLAT 主ホール
木ノ下歌舞伎

『心中天の網島』

アクセシビリティ版
切ない愛が義理と情の狭間で燃え上がる音楽劇。





カナダのケベック州を拠点に活動するアガット&アドリアンによる『ノ・ルムーふたりのバランスー』は、アクロバティックな技術やダンスを巧みに融合させ、パワフルでコミカルなアクロバットとストーリーテリングの要素を織り交ぜた魅力的なステージです。彼らはハンド・トゥ・ハンドや足で人を投げ上げるアクロバットなどのサーカス技術を駆使し、迫力あるパフォーマンスを披露します。

タイトルの“Normes”は、フランス語で「きまり」「当たり前」のこと。それに「No」と言ってみよう、というのがこの作品のテーマ。サーカス界における伝統的な男性／女性の役割分担に疑問を抱いた彼らは、新たな視点と共により豊かで深みのあるアクロバット言語をつくりだし、既存の枠にとらわれない表現を追求しています。

7月25日[土]15:00開演、26日[日]13:00開演
演出・出演＝アガット&アドリアン
会場＝PLAT アートスペース

プラット親子わくわくプログラム2026
アガット&アドリアン
『ノ・ルムーふたりのバランスー』
Agathe and Adrien “N.Ormes”

演出・出演
アガット&アドリアン
涙と笑いが絶妙に溶け合う、
親密で心揺さぶる旅へお連れします。

—アガットとアドリアンがサーカスやパフォーミングアーツと出会ったきっかけ、思い出について教えてください。子どもの頃からサーカスに触れる環境があったのでしょうか？

—アガットがサーカスに出会ったのは5歳の時でした。それ以来、ずっとサーカスに夢中で、これを仕事にすると強く心に決めていました。さまざまな教室で学んだ後、フランスのシャテルロー・サーカス学校へ進み、さらにカナダのケベック・サーカス学校で研鑽を積みました。

一方、アドリアンがサーカスに出会ったのは14歳の時と、少し遅めでした。きっかけは高校のジャグリングクラブです。その後、ヴェルダン・サーカス学校でさまざまな種目を経験し、ケベック・サーカス学校で自身の専門として「ハンド・トゥ・ハンド」を選択しました。そこでアガットと出会い、二人のユニットとしての活動が始まったのです。

—『ノ・ルム』の作品やカンパニーの活動についてお聞かせください。

—私たちは自身のカンパニーのあり方はもちろん、『ノ・ルム』の創作やツアーの計画に至るまで、常に「環境」と「人間」にとっての持続可能性(サステナビリティ)を判断の軸に据え、活動の手法を選んでいきます。たとえば、飛行機での移動についても決して軽くは考えていません。現地の人々と深く交流するのに十分な滞在期間を確保できる場合のみ、渡航を決めています。そのための大切な手段のひとつがワークショップです。出会う人々に刺激を与えるだけでなく、私たち自身もその出会いを通じて変化していきたいと考えています。

私たちの作品はどれも環境や社会問題をテーマにしており、『ノ・ルム』では、男女間の平等や公正、ジェンダーの役割、そしてペアにおける力関係のあり方について描き出しています。

—『ノ・ルム』は2023年初演から現在まで世界5か国で140回以上にわたり上演されています。国や地域によってお客様の反応の違いや、印象に残ることはありましたか。

—はい、実にたくさんの違いを感じています!どんな場面で笑いが起き、悲鳴が上がり、ささやき声が漏れるのか……。終演後に寄せられる感想も、場所によってさまざまです。なかでも私たちの心を最も揺さぶるのは、終演後に私たちの腕の中で涙を流してくれる方々の反応です。その方たちは、女性として、あるいは男性として「こうあるべき」という周囲の期待とは違う振る舞いをしてもいいのだと、私たちのパフォーマンスを通じて勇気もらい、自分という存在を認められたと感じた、と伝えてくれました。

—今回、お二人にとって初めての日本ツアーですが、日本でやりたいことや楽しみにしていることはありますか？

—日本の文化や食、そして街にあふれる色彩を体験できることに、今からとてもワクワクしています!また、訪れる各地の都市で多くの方々との出会い、対話できるワークショップの機会も、私たちにとってとても大切なものです。ツアーの前後には少し時間をとって、日本の自然にも触れてみたいと考えています。

—日本ツアー期間は夏休みにあたるので、家族で劇場にお越しいただき、パフォーマンスの感動とともに、男性／女性の役割についても家庭で考えたり話しあう機会が生まれることを期待しています。最後にメッセージをお願いします。

—この作品はアクロバットとダンスを巧みに織り交ぜながら、二人の主人公の関係性や、その間で揺れ動く力学を追いかけていきます。言葉は一切使いませんが、多くのメッセージが込められた作品です。

これまでの先入観が揺さぶられるような、そんな体験に期待してください。涙と笑いが絶妙に溶け合う、親密で心揺さぶる旅へと皆さんをお連れします。

翻訳：Art Translators Collective

アガット&アドリアン
アガット・ピセリエとアドリアン・マレット＝シェニエにより2018年に結成。サーカス、ダンス、演劇／パフォーミングアーツの境界で活動し、独自の芸術的かつサーカス的なボキャブラリーを発展させている。2025年、若手サーカスアーティストの登竜門である国際フェスティバル「シルク・ドゥ・ドゥマン」にて特別賞・オーディエンス賞・パリ市賞をトリプル受賞。今、最も注目されるサーカスカンパニーの一つ。

Information

PLAT主催・共催公演情報

プラット2026年度 プログラム説明会 4/26 [日] 14:00開演

2026年度のプラット主催・共催プログラムを一挙にご紹介いたします。若手音楽家によるコンサートや、毎年好評のプレゼント抽選会もお楽しみに！
出演＝桑原裕子(プラット芸術監督)、成田萌[ヴァイオリン]、犬塚沙希[ピアノ]
会場＝PLATアートスペース
料金＝無料(整理券または劇場ホームページから要申込)
※整理券はプラットチケットセンターにて配布中



とよはしアートフェスティバル2026 大道芸 in とよはし

5/4 [月・祝] 12:00-18:00
5/5 [火・祝] 11:00-16:00

マイムにアクロバット、JAZZなど、世界で活躍する大道芸人たちが、PLAT北側広場などの屋外でパフォーマンスを行います。
会場＝PLAT 北側広場 ほか
料金＝無料
※詳細は決まり次第、ホームページで公開予定



竹内直 The Organic Resonations スペシャルライブ

5/4 [月・祝] 17:00開演

世界を走るサクソ奏者、竹内直が率いるジャズミュージシャンによるスペシャルライブを開催します。
出演＝竹内直 The Organic Resonations
会場＝PLAT主ホール
料金＝無料(要整理券)
※整理券はプラットチケットセンターにて配布中

ケムリ研究室 no.5 予定枚数終了 『サボテンの微笑み』

4/29 [水・祝] 12:00開演 (共催)
毎公演手触りの異なる作品を作り上げてきたケムリ研究室による待望の新作公演。大正、昭和初期の日本を舞台に兄妹が暮らす家を訪れる人々の姿を描きます。
作・演出＝ケラリーノ・サンドロヴィッチ
出演＝緒川たまき、瀬戸康史、瀬戸さおり、清水伸／赤堀雅秋、萩原聖人／鈴木慶一
会場＝PLAT主ホール
[主催:キューブ]

『メアリー・ステュアート』

5/21 [木] 18:00開演
5/22 [金] 13:00開演
5/23 [土] 13:00開演
スコットランドとイングランド、二人の女王メアリー・ステュアートとエリザベス1世。
イギリス史に残る二人の女王を巡る愛と憎悪と権力のシーソーゲームを、栗山民也の演出と二大女優・宮沢りえ×若村麻由美の初共演により待望の上演！
原作＝フリードリッヒ・シラー
翻案＝ロバート・アイク
翻訳＝小田島則子
演出＝栗山民也
出演＝宮沢りえ、若村麻由美／橋本淳、木村達成、大山イヌコ、谷田歩、大場泰正、宮崎秋人、采澤靖起、阿南健治、久保耐吉／段田安則
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]S席 12,000円 ほか

パルコ・プロデュース2026 好評発売中 ル・コント

『この世界に19文字の文章など存在しない』
6/6 [土] 13:00開演・18:00開演
6/7 [日] 13:00開演
現代音楽×映像×身体表現×笑い!?
小林賢太郎が気鋭のクリエイター達と新たに創り上げるのは、音楽・映像・身体がインタラクティブに混ざり合う、新感覚の「コント」!? 笑いのカリスマ・小林賢太郎による新たなステージにどうぞご期待ください。
脚本・総合演出＝小林賢太郎
出演＝野間口徹、なだぎ武、竹井亮介、うらじぬの、平原慎太郎
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]9,000円 ほか
[主催:サンライズプロモーション]



講談 一龍斎貞鏡独演会

5/30 [土] 14:00開演
芸道と子育てを両立しながら、様々な挑戦を続ける今話題の講師、七代目一龍斎貞鏡がプラットに初登場。
出演＝一龍斎貞鏡
会場＝PLATアートスペース
料金＝[全席自由・整理番号付]
一般3,500円 ほか



カンパニーデラシネラ 『はだかの王様』

6/20 [土] 13:00開演
6/21 [日] 13:00開演
セリフを使わず身体表現でユーモラスに物語を描くカンパニーデラシネラ。子どもから大人まで、笑いと驚きに満ちた時間を楽しめる舞台をお届けします。
会員先行＝4月25日(土)
一般発売＝5月2日(土)
演出＝小野寺修二
出演＝崎山莉奈、劉書筑、善積元、藤田桃子、小野寺修二
音楽・音響のVV翻訳表現＝零境
会場＝PLATアートスペース
料金＝[全席指定]おとな4,500円 ほか

Pick up

小曽根真トリオ TRiNFiNiTY+ featuring 松井秀太郎

世界へと躍進を続ける小曽根真の最新トリオ、TRiNFiNiTY。トランペット界の新星として注目を集める松井秀太郎をゲストに迎えて熱いステージを繰り広げる。
小曽根真と若手トップミュージシャン達との最高のライブをお届けします!

6/11 [木] 18:30開演
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]
S席 一般7,000円、A席 一般4,500円 ほか

出演＝小曽根真[ピアノ]、
小川晋平[ベース]、
きたいくにと[ドラムス]、
ゲスト＝松井秀太郎[トランペット]

好評発売中



木ノ下歌舞伎 『心中天の網島』 アクセシビリティ版 7/4 [土] 14:00開演

近松門左衛門の傑作『心中天の網島』が、木ノ下裕一×糸井幸之介のタッグで蘇る!遊女小春と紙屋治兵衛の切ない愛が義理と情の狭間で燃え上がる音楽劇を、アクセシビリティを加えた新たなリクリエーション版として上演。
会員先行＝4月25日(土)
一般発売＝5月2日(土)
作＝近松門左衛門
監修・補綴＝木ノ下裕一
演出・作詞・音楽＝糸井幸之介
出演＝日高啓介、湯川ひな、伊東沙保、西田夏奈子、武居卓、緒方壮哉、大鷹明良 ほか
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]S席 5,000円、A席 3,500円 ほか



井垣壮太&ミケーレ・イエニングス ピアノコンサート

7/11 [土] 14:00開演
豊橋市出身のピアニスト井垣壮太と、彼がバツハコングループで出会ったイタリア人ピアニストとのジョイントコンサート。
演奏予定曲目＝ベートーヴェン:ピアノソナタ第29番「ハンマークラヴィーア」変ロ長調 Op.106、バツハ:パルティータ第6番 小短調 BWV830 ほか
会員先行＝4月25日(土)
一般発売＝5月2日(土)
出演＝井垣壮太[ピアノ]、ミケーレ・ジョバンニ・イエニングス[ピアノ]
会場＝PLATアートスペース
料金＝[全席自由・整理番号付]一般3,500円 ほか



【関連事業】プレレクチャー ベートーヴェン 《ハンマークラヴィーア》入門

5/31 [日] 14:00～16:00
講師＝井垣壮太
対象＝ピアノや音楽に興味のある小学生以上
定員＝50名
会場＝創造活動室A
参加費＝小学生～高校生500円、一般1,000円
申込方法＝
①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

**プラット親子わくわくプログラム2026
アガット&アドリアン**
『ノ・ルム - ふたりのバランス -』

7/25 [土] 15:00開演
7/26 [日] 13:00開演

カナダのケベック州を拠点に活動するアガット&アドリアンによる『ノ・ルム』は、アクロバティックな技術やダンスを巧みに融合させ、パワフルでコミカルなアクロバットとストーリーテリングの要素を織り交ぜた魅力的なステージ。ハンド・トゥ・ハンドやイカリアン・ゲームといったサーカス技術を駆使し、迫力あるパフォーマンスを披露します。

会員先行=5月9日(土)
一般発売=5月23日(土)

演出・出演=アガット&アドリアン
会場=PLAT アートスペース
料金=[全席指定]おとな3,000円、こども1,000円 ほか

アル☆カンパニー
『その後、火を焚いて踊ろう』

8/8 [土] 14:30開演
8/9 [日] 14:30開演

俳優の平田満、井上加奈子によるプロデュース団体、アル☆カンパニー。2025年、短編戯曲リーディング3本立てとして上演した戯曲を、舞台作品としてお贈りします。

会員先行=6月6日(土)
一般発売=6月20日(土)

作・演出=野田慈伸
出演=平田満、井上加奈子、浅野千鶴、片桐美穂、野田慈伸
会場=PLAT アートスペース
料金=[全席指定]一般4,500円 ほか



**穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
プロデュース
舞台手話通訳付き公演
『楽屋
- 流れ去るものはやがてなつかしき -』**

9/22 [火・休] 14:00開演、18:30開演
9/23 [水・祝] 14:00開演

PLATプロデュース作品。女優4人の楽屋での会話により描かれる清水邦夫の名作を、聴覚障がい者への鑑賞サポートとして、舞台手話通訳付きで上演します。

会員先行=7月11日(土)
一般発売=7月25日(土)
作=清水邦夫
演出=樋口ミユ
出演=ののあざみ、大浦千佳、服部容子 ほか
舞台手話=加藤真紀子、高田美香、水野里香
会場=PLAT アートスペース
料金=[全席指定]一般4,500円 ほか



**リトアニア 現代オペラパフォーマンス
『HAVE A GOOD DAY!』**

10/3 [土] 14:00開演

リトアニア招聘の現代オペラパフォーマンス。10人のレジ係とスーパーマーケットの環境音、ピアノ演奏によって構成されるミニマルな演出が、私たちの社会の在り方を問い直し、人間の多面性を静かに浮かび上がらせてます。

会員先行=7月4日(土)
一般発売=7月18日(土)

会場=PLAT 主ホール
料金=[全席指定]一般6,000円 ほか



Workshop

ワークショップ・レクチャー

**高校生と創る演劇
『わたしの星』**
出演者&スタッフ募集

高校生出演者とスタッフが、劇場やプロのスタッフとともに演劇の上演に挑む「高校生と創る演劇」。2026年度は、火星への転校と、文化祭での発表を巡る高校生たちの1日を描く柴幸男の代表作『わたしの星』を、かるがも団地の藤田恭輔による上演台本・演出で上演します。

対象=2008年4月2日~2011年4月1日生まれで、稽古、11月7日(土)・8日(土)の公演に参加できる方。演劇経験・障がい不問。

定員=出演者、スタッフ各10人程度
参加費=無料
申込方法=4月27日(月)17:00までに
①劇場ホームページの専用申込フォーム
②参加申込書に必要事項を記入の上、窓口を持参、もしくは郵送。



**プラットワンコインコンサート2026
出演者募集**

音楽鑑賞の普及と同時に、豊橋および三河地域にゆかりのある若手音楽家に演奏の機会を提供し、地域の音楽からの支援・育成を目的としたプラットワンコインコンサート。劇場と共にコンサートをつくり、出演する若手音楽家を募集します。

※応募条件・詳細は劇場ホームページをご確認ください。
審査=

[一次]書類
[二次]実技:7月7日(火)~9日(木)のいずれか17:00以降
申込方法=5月31日(日)までに
①必要書類を窓口・郵送(必着)にて提出
②必要書類をメール(jigyuu@bunzai.or.jp)にて提出



One coin concert

ワンコインコンサート

**若手音楽家育成事業
プラットワンコインコンサート**

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのコンサートです。500円でぜひたくなひとときをお過ごしください。

会場=PLATアートスペース
料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]500円
上演時間=60分
[特別協賛:サーラグループ]

鈴木ぴあ乃「めぐりゆく旋律」
5/28 [木] 19:00開演 **好評発売中**

出演=鈴木ぴあ乃[フルート]
演奏予定曲目=
S.カーク=エラート:シンフォニッシュ・カンツォーネ 作品114、F.シューベルト:「しほめる花」の主題による序奏と変奏 作品180 D802 ほか



中村由紀子「記憶とウタ」
6/30 [火] 11:30開演 **好評発売中**

出演=中村由紀子[マリンバ]
演奏予定曲目=
ライラ・メレツキー:シャコンヌ(日本初演)、スーミン・キム:…鳥たちの足跡を覚えていない ほか



**トリルト
TiiIT「気炎万丈
—燃え上がる音楽の夜—」**
8/21 [金] 19:00開演

会員・一般同時=5月27日(水)
出演=松原理子[クラリネット]、福井明日香[ピアノ]、石丸柔瑛[パーカッション・ドラム]

演奏予定曲目=
葉加瀬太郎:情熱大陸、G. ガーシュウィン:ラプソディ・イン・ブルー ほか



**レゾナンス
Resonants
「シュトラウスに寄せて」**
9/4 [金] 11:30開演

会員・一般同時=5月27日(水)
出演=伊藤澄香[ヴァイオリン]、河邊直生[ピアノ]

演奏予定曲目=
コルンゴルト:「から騒ぎ」より4つの小品 Op.11、R. シュトラウス:ヴァイオリン・ソナタ変ホ長調 Op.18 ほか



Ticket center

チケットセンター

**チケットの購入・お問合せ
プラットチケットセンター**

●オンライン
https://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]
●電話・窓口
0532-39-3090[休館日を除く10:00-19:00]

発売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。
翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。

●料金=U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:1,000円
●購入方法=各公演の一般発売初日から取扱い。
●その他=本人のみ1公演につき1人1枚、枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
※一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



**プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料**

●特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

**〈会員限定!〉 好評発売中
2026年度マイセレクト4発売**

演劇・ダンスなど多彩な公演からお好きな4演目を選ぶ自分だけの「マイセレクト4」。贈り物としてもご利用いただけます。

対象公演=
カンパニー・デラシネラ『はだかの王様』
木ノ下歌舞伎『心中天の網島』アクセシビリティ版
アル☆カンパニー『その後、火を焚いて踊ろう』
舞台手話通訳付き公演『楽屋 - 流れ去るものはやがてなつかしき -』
『HAVE A GOOD DAY!』
マームとジブシー『under ground』
二兎社『見よ、飛行機の高く飛べるを』
MONO『新作公演』

「願い」

桑原裕子

穂の国とよはし芸術劇場 芸術監督

ユーモアはいつ、どこで生まれるのだろうか。

たとえばそれは、いとこの結婚式で生まれた。グアムのグランドホテルにある白亜のチャペルで挙式するはずが、数十年に一度と呼ばれる巨大な台風が来てチャペルは浸水。外出不可、ホテルに閉じ込められ、食事は三食朝食用のわびしいバイキング、突然起こる停電により部屋で映画すら見られないのは我慢出来るが、挙式の中止は痛すぎる。いとこは二晩、泣き通し。私はいとこや親戚たちに良いとこ見せようと、鬼クレーマーと化す勢いでツアー会社と交渉し、その結果、椰子の木々と小さな池に囲まれた素朴ながらもかわいチャペルをどうにか手配してもらった。三日後に台風は去り、リムジンも手配出来たのはいいけれど、乗り付けたチャペルは椰子の木が8割なぎ倒され、さながらアマゾンのジャングル状態。池は『犬神家の一族』でスケキヨが足をバンザイさせていたあの池のごとく、どどめ色に濁り、その中央にポツンと建つ木造のチャペルは泥をかぶっていた。そんなおどろおどろしい光景の中で、精一杯の笑みを浮かべるとこたち新郎新婦のウェディングフォトは……ちょっと面白い……いやもちろん笑ってはいけない。いっそ中止にした方が良かったのでは？という想いが駆け巡る。一肌脱いだつもりがむしろ余計なことをしたと悟っても時既に遅し。式ができないよりは良かったと喜ぶ親戚たちを横目に私は申し訳なさで一杯なのだから、おもしろなど頭をかすめてはいけない。

しかしいざ式が始まり、日本人の挙式だからと気を利かせてくれた現地のオルガン奏者が演奏してくれたのが、サザンの『TSUNAMI』だったのはさすがにむりだった。今日いちばん演奏しちゃだめなやつ。真面目な顔して誓いの言葉を聞く親戚たちの後ろ頭に「この曲って……まさか」と浮かんでいたあの時の光景を思い出すと一生笑える。いとこよ、ごめん。でもその後あなたもあの記念写真見て笑ってたね。念のため、これは2011年の震災より前だったことも付け加えさせて欲しい。

時を経て、おばあちゃんの葬式の時もいろんなユーモアが生まれてしまった。それは最新式の電子型遺影が発光しすぎておばあちゃんの顔が輪郭以外ほぼ白

飛びしていたときや、田舎の伝統的な葬儀様式がみんなうろ覚えだったとき、お坊さんの説法中になぜか父がふざけだした瞬間などに。

念のため、私はいとこもおばあちゃんも大好きだ。だがユーモアは、困ったときや、暗い気持ちに落ちそうな瞬間、とても哀しいときなんかにも生まれる。むしろそんな瞬間にこそ強い輝きを放ち、私たちは幾度となくその笑いに救われてきたのだと思う。

今年二月、私はPARCOプロデュースの舞台『プレゼント・ラフター』に出演していた。イギリスの劇作家で俳優のノエル・カワードが自身をモデルにして描いた、皮肉の効いた洒落なコメディだ。日本版では稲垣吾郎さんが主演し、モチモチながらも中年の危機にうろたえるスター、ギャリー・エッセンディーンをなんとも魅力的に演じた。私は彼の秘書役で、イギリスらしいセンスの良い憎まれ口をたたくき合うシーンはどれも嬉しい。約80年前の作品とは思えぬほど台詞はウィットに富み、当時の風情を感じつつもユーモアに古さを感じない。

そう、この作品は第二次世界大戦の戦時下に生まれた。世界中が暗く重い雲に覆われていたあの当時、こんなに明るいコメディが生まれたのだということに、それを生み出した人間の強さに、改めて感嘆する。

そんな舞台の東京千種楽を迎えた2月28日に、イランで「また」戦争が始まってしまった。アメリカはあくまで軍事攻撃だと言っているけれど(この原稿を書いている段階では)、これはやはり戦争だと思う。起きてはならない戦争だと思う。

このタイミングで『プレゼント・ラフター』を上演していることに、後付けで意味がもたらされた気がした。それは皮肉に思え、同時に、救いにも思える。

遠くの戦火に想いを馳せると無力感に襲われそうになる。まったく、笑えないことばかり起きている。憤りと失意をいつたりきたりしつつ、客席から溢れるたくさんの笑い声に助けられる日々さえ罪悪感を抱きそうになるけれど、それは違うと言いつつ聞かせて、願う。

暗い空の下でも、どこかでユーモアが生まれ、誰かをわずかでも救ってくれていることを。

Sponsor 広告募集

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

YOSHINO ASSOCIATES architects & engineers
吉野設計研究所
http://www.440a.co.jp

有限会社 魚伊
電話 52-5256

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
✉ y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタヂオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

なればつくる
ONOCOM 株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間
巖さく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

60th anniversary

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 三十三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶席菓子専門店
若松園
御菓子司

気まぐれコンサート
事務局 / 0532-62-9259 (小川)

安心・安全な地下駐車場
パルク500
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長兼院長 塩之谷 香・副院長 栗田和洋
豊橋市植田町関取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 舟ちくわ

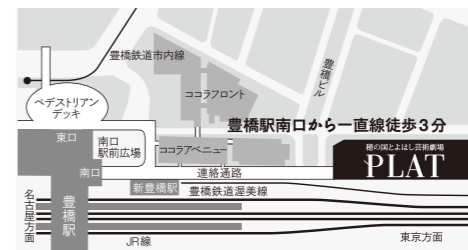
井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店 高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO 9001 ISO 14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
サーラグループ



Support 特別賛助会員のご紹介

私たちは穂の国とよはし芸術劇場の活動を支援しています。

- 株式会社アイセロ
- 旭精機株式会社
- 株式会社イクモ
- 税理士法人イグラ会計
- イノチオホールディングス株式会社
- 株式会社エクスラージ
- 大和田和恵
- 株式会社オリエント楽器
- 医療法人佳道会 藤城歯科医院
- 蒲郡信用金庫
- 川西塗装株式会社
- 河原崎 妙
- 株式会社三光製作所
- 三光精密工業株式会社
- サーラエナジー株式会社
- 株式会社サーラコーポレーション
- 三遠機材株式会社
- 株式会社東雲座カンパニー
- 株式会社シュガーサウンド
- 大三紙業株式会社
- 戸田淳子
- トヨタネ株式会社
- トヨネン株式会社
- 株式会社豊橋印刷社
- 豊橋芸術文化事業サポート株式会社
- 豊橋ケーブルネットワーク株式会社
- 豊橋信用金庫
- 豊橋倉庫株式会社
- 豊橋鉄道株式会社
- 早川直宏
- 株式会社平松食品
- 藤城建設株式会社
- 学校法人藤ノ花学園
- 株式会社豊川堂
- まちなかビブリオ倶楽部
- 松井商事株式会社
- 村田小児歯科センター
- 物語コーポレーション
- 山脇康宏
- 有楽製菓株式会社 豊橋夢工場
- ゆーもあねっと
- 若松園
- 匿名会員4名
(五十音順)

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表](9:00-20:00)
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT